

ところ会の有志による「鎌倉街道上道を歩く 第8回 (2日目)」
 新田義貞の鎌倉攻めの史跡・稲村ヶ崎、極楽寺坂から大仏切通を通り鎌倉駅まで
 2015-10-23 記 居田 治
 江ノ電藤沢駅～江ノ電鎌倉駅まで (約9km)

- 日程：2015年10月23日(金)
- 天気：晴、気温は歩くにはちょうど良い感じ
- 参加者：16名(女性10名、男性6名)
- 行程：江ノ電藤沢駅⇒江ノ電稲村ヶ崎⇒①稲村ヶ崎⇒②十一人塚⇒③日蓮上人袈裟懸松⇒④針磨橋⇒⑤極楽寺⇒⑥成就院・極楽寺切通⇒⑦星の井⇒⑧力餅屋⇒⑨江ノ電撮影ポイント⇒⑩御霊神社⇒⑪長谷寺⇒⑫大仏切通⇒⑬高德院⇒江ノ電長谷駅⇒江ノ電鎌倉駅⇒銀座アスター(昼食)⇒帰路へ

「鎌倉街道歩きも昨日の鎌倉八幡宮で無事に終了しました。今日は『新田義貞が稲村ヶ崎の干潮を利用し、海岸線を突破。極楽寺坂の背後に廻り難攻不落の極楽寺坂の陣を破る。これを聞いて、勢いづいた全義貞軍はドット鎌倉に侵入し鎌倉幕府を滅亡させ、頼朝以来141年続いた鎌倉幕府はここに滅亡する。』この話に関連した稲村ヶ崎・極楽寺の切通を散策、さらに大仏切通まで足を延ばし、江ノ電の長谷駅まで戻り鎌倉駅まで出て駅前で昼食、解散する計画が組まれており、本日も起伏の多い大仏切通の古道が待ち構えているコースをめぐる。昨日より、冷えた朝の中でさあ出発です。」

・・・宿泊先の東横INNを8時00分に出発・・・

<2日目歩きはじめる>



ホテルの前で



江ノ電藤沢駅



江ノ電稲村ヶ崎駅



海を眺める



稲村ヶ崎へ

稲村ヶ崎

新田義貞が黄金造りの太刀を海に投じて稲村ヶ崎の海岸を渡り攻め入ったという故事は次の鎌倉という歌で有名ですが、

♪七里ヶ浜のいそ伝い 稲村ヶ崎名将の 剣投ぜし古戦場
 実は大館宗氏が渡ったと同様干潮時に渡ったようです。



稲村ヶ崎



稲村ヶ崎にて



江の島遠景

十一人塚

新田義貞は鎌倉攻めで戦死した大館宗氏とその家臣十一名の遺体を埋め、十一面観音を安置しその魂を祀りました。



十一塚碑

元弘三年(1333)五月十九日 新田勢大館又次郎宗氏を将として 極楽寺口に攻入らんとせしに 敵中 本間山城左衛門手兵を率いて大館の本陣に切込み 為に宗氏主従十一人戦死せり 即遺骸を茲(ここ)に埋め 十一面観音の像を建てて以て其の英魂を弔し 之を十一人塚と称せしと云う

日蓮上人袈裟懸松跡

幕府に捕らえられ龍ノ口の刑場へとひかれて行く日蓮は、この地において、袈裟が血に染まるのは恐れ多いと近くにあった松の枝に掛けたといわれています。現在松はありませんが、石碑によってその姿を偲ばれる。



針磨橋

鎌倉十橋の一つ、針金を磨いて針を作る老婆が住んでいたとのこと。名がついたといわれる。鎌倉を流れる川に架かる橋で特に謂れや伝説の残る橋を鎌倉十橋と言います。



極楽寺

『極楽寺縁起』によれば、当寺はもと深沢（鎌倉市西部）にあった念仏系の寺院を、正元元年（1259）、北条重時が当時地獄谷と呼ばれていた現在地に移したものであるという。ここに極楽寺が建てられたのは、現実には死骸が遺棄されたり、行き場を失った者たちが集まったりする「地獄」ともいうべき場所になっていたためとの指摘があります。



江ノ電極楽寺駅



極楽寺の実質的な開祖である忍性が当寺に入寺したのは文永4年（1267年）のこととされており、極楽寺の古絵図を見ると、往時の境内には施薬院、療病院、薬湯寮などの施設があり、医療・福祉施設としての役割も果たしていたことがわかります。

極楽寺切通



極楽寺切通は現在では自動車道路として整備されていますが、鎌倉時代は成就院の前を通っていたと思われる。

成就院



成就院はアジサイ寺として有名ですが、アジサイが咲いていない時も由比ガ浜あたりの海が見えて良い場所です。



成就院から由比ガ浜を臨む

星の井



鎌倉十井の一つ。この辺りは山深く、うっそうと木々が繁り、昼でも暗かったため、井戸を覗くと星が輝いて見えたという伝説からこの名がある。

力餅屋



創業約300年の店、権五郎力餅（@95円）が名物で、店の前に御霊神社を示す石塔がる。



江ノ電撮影ポイント



トンネルから出てくる江ノ電を写す。

御霊神社



この長谷観音近くの御霊神社は、もとはこの梶原にある御霊神社を移したものだと言われている。「かながわの名木100選」に指定されたタブノキがある。境内で一休みする。

長谷寺

鎌倉の西方極楽浄土と謳われ、1年を通じ「花の寺」として親しまれる長谷寺。本尊の十一面観音菩薩は、高さ9.18mを誇る日本最大級の木彫仏。また、坂東観音霊場の第四番札所として、往古より衆生の崇敬を集める古刹です。



山門と鷺(左上)



鷺、拡大



<大仏切通に向かって>



大仏切通下の隧道



大仏切通下の隧道に入る

大仏切通（国指定遺蹟）

大仏切通は鎌倉七口の一つに数えられ1241年～1250年頃に整備されたと考えられています。大仏切通は江戸時代に経路が変更され、県道（現在トンネルが通っている）が出来たため、大規模な破壊から免れ、「やぐら」と呼ばれる岩窟や切岸（きりぎし）などと共に鎌倉のかつての幹線道路のあり方を今に伝えている

大仏切通写真



上り始める



急峻な道を上る



切通

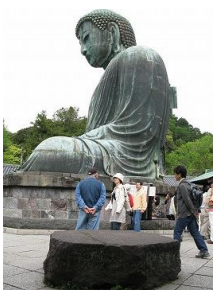


最後の階段を下りる



お疲れさまでした

高德院（鎌倉大仏）



この写真に写る石はかつてあった大仏殿の礎石です。大仏殿は建武元年(1334)および応安2年(1369)の大風と明応7年(1498)の大地震によって損壊しています。以後、露坐となりました。



江ノ電
長谷駅へ



江ノ電長谷駅前



電車に乗込む



女性の方の昼食風景

報告者の一言
『時間の計画・実行も、予定通りで、時間通りに食事場所に着きました。』

皆さん、ご苦労様でした、これで8回にわたるところ会の有志による“鎌倉街道を歩く会”も終了いたしました。企画・立案・実行の山本さんありがとうございました。

第8回（2日目）

報告者 居田